

JSTにおけるオープンサイエンスの 促進に向けた取組

2019年11月12日



科学技術振興機構



情報事業におけるオープンサイエンス促進の取組

● J-STAGE

- オープンアクセス化対応 (DOAJ収載、Plan S対応)
 - ジャーナルコンサルティングによる要件整備
 - ライセンス表示等のシステム改修
- エビデンスデータ環境整備
 - J-STAGE登載論文根拠データ登載用リポジトリの整備
- 機械可読化推進

● 国際的に流通するPIDへの対応

- ORCID (J-STAGE、JaLC、researchmap)
 - ID認証対応
 - 認証付きデータ連携対応
 - ORCID auto-update (JaLC)
- Funder ID/Grant ID対応 (J-STAGE、JaLC、researchmap、JSTプロジェクトDB)

情報事業におけるオープンサイエンス促進の取組

● 研究データ利活用協議会

- 研究データ利活用に関する国内外事例の共有等により、我が国における研究データ利活用推進への貢献を期待し、平成28年6月に設立
- 国内関係機関と共同運営(JSTは事務局を担当)

● Japan Open Science Summit

- オープンサイエンスに関する全てのステークホルダーが一堂に会するカンファレンスとして、2018年より年1回開催
- 国内関係6機関で共同主催

● 国際的識別子の導入、利活用に向けた取組

- Crossref Funder Advisory Group (Grant ID)
- ORCID Reducing Burden and Improving Transparency (ORBIT) Project (ORCIDのファンド事業での利活用検討)

● Research Data Alliance (RDA)におけるFunder IGの創設

- P14(ヘルシンキ)に向けてIG設置が認可
- Co-chairs: CIHR、Wellcome、NIH、JST

ファンディング事業成果のオープン化に関する方針

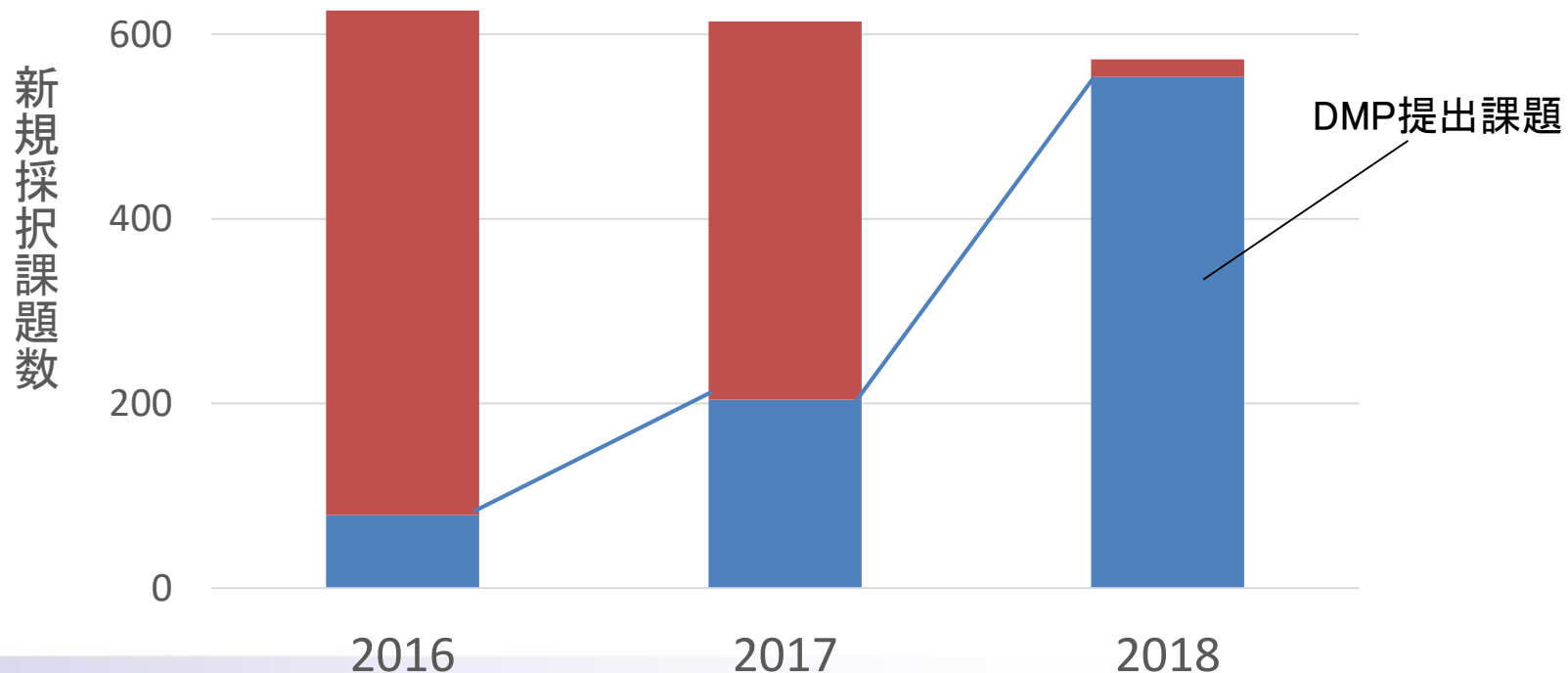
オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針(2017年4月)

- 国内外におけるオープンサイエンスに関する議論、検討の進展など、科学技術情報を取り巻く情勢の変化を踏まえ、研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針を策定し、平成29年4月1日に公開
- 本方針では、JSTが研究資金を配分し実施する研究プロジェクトにおいて得られた研究成果について、以下のとおり取り扱う
 - 成果論文はオープンアクセス化することを原則
 - データ管理計画(DMP)の提出を義務化(採択後提出)
 - 成果論文のエビデンスデータについては公開を推奨
 - ただし、公開にあたり特別の配慮を要するものについては、公開の対象外とする等、適切に対応
- 原則として、JSTが研究資金を配布し実施する全ての研究プロジェクト等を対象とし、本方針の公開以後に投稿される研究成果論文、本方針の公開以後に公募を開始したプログラム等によって生産された研究データから適用

データマネジメントプラン(DMP)の導入状況

- 平成29年4月策定した「JSTオープンサイエンス方針」に従い、JSTの全事業を対象に平成29年度公募の新規研究課題から順次導入開始
- JSTファンディング部門では、研究者に向けたマニュアル整備等による、本方針への対応の要請と、研究者のDMP作成支援などを実施
- DMP導入により研究データ管理に対する認識が深まり、より適切なデータ管理が進むことを期待

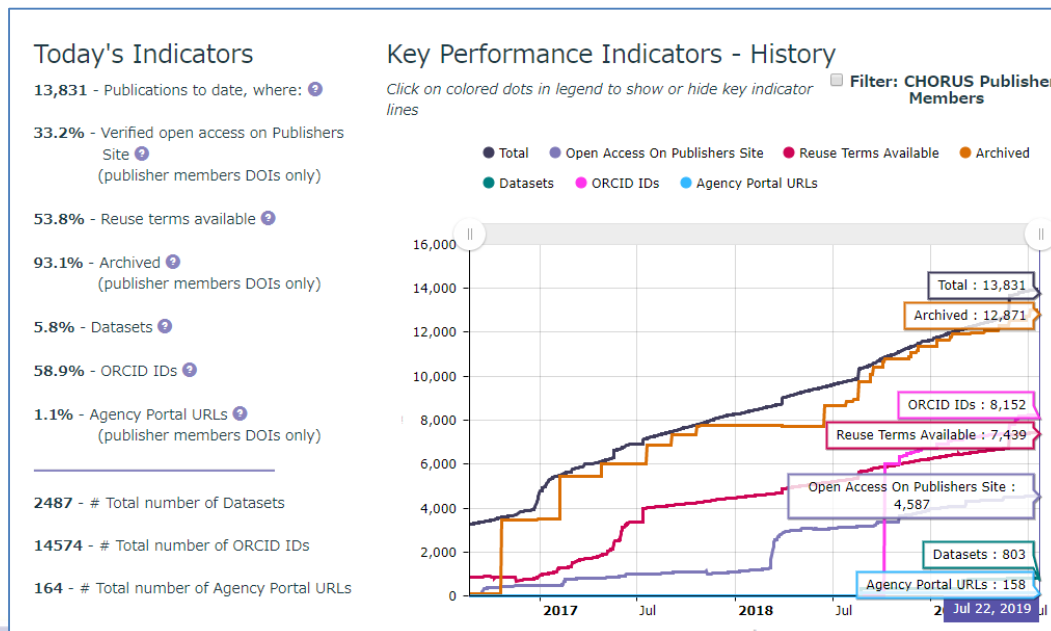
新規採択課題に占めるDMP提出課題数の推移



オープンアクセスの促進

CHORUSジャパンダッシュボードサービスの活用

- 平成29年9月、JSTは学術出版社団体「CHOR」との間で、JSTファンディングによる論文のオープンアクセスの推進に向け、CHORUSジャパンダッシュボードサービスの利用契約を締結
- JST事業の成果であることが確認できた論文の出版状況やOA化状況が提供される
- JST情報事業は、CHORUSジャパンダッシュボードサービスを通じ、以下の取組を開始
 - ① 出版者サイトにおける著者最終稿等のOA化
 - ② 論文の出版状況・OA化状況のレポートサービス



※ CHORとは

- 米国を中心に研究成果のオープンアクセス化に取り組む非営利組織で、研究助成を受けた研究成果論文を、出版者の公開ルールに従って出版者のサイト上で公開し、その情報を提供するサービス「CHORUS」を運営
- CHORUSジャパンダッシュボードサービスでは、加盟出版者はJST事業の成果論文を特定してCHORUSに提供、CHORUSが情報を集計し契約者（JST）へ提供（左図は提供されたダッシュボード画面）